

18日に発生しました山形県沖を震源とする地震と、その後の余震や大雨の不安をお察し申し上げますとともに、被害を受けられました皆様に、謹んでお見舞い申し上げます。一日も早い復旧をお祈りいたします。

現在会員登録数2,967人さま。次号は7月23日発行の予定です／

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 106

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

■-----  
【1】お知らせ

● 国際講演会&ワークショップの参加者募集

韓国の絵本作家パク ジョンチェさんを招聘し、国際講演会（大人向け）と、絵本づくりワークショップ（小学生向け）を開催します。

（1）国際講演会「韓国の絵本作家 パク ジョンチェの絵本を語る」

日時：7月20日（土）午後1時～4時

講師：パク ジョンチェ さん（絵本作家）

申明浩 さん（翻訳家、武蔵野美術大学非常勤講師）※ 兼通訳

広松 由希子 さん（絵本評論家）

定員：60名（申込先着順） 参加費：1,000円

会場：大阪府立中央図書館 2階大会議室（東大阪市荒本）

主催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

共催：絵本学会

※ 詳細、申し込みは ↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/02\\_lecture/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html)

（2）ワークショップ「絵本作家パク ジョンチェさんと絵本をつくろう！」

日時：7月21日（日）午後1時～4時

講師：パク ジョンチェ さん 通訳：申明浩 さん

対象：小学生 定員：30名（申込先着順） 参加費：500円

会場：大阪府立中央図書館 2階大会議室（東大阪市荒本）

※ 詳細、申し込みは ↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/01\\_kids/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/01_kids/index.html)

○ 協賛：サントリーホールディングス株式会社／株式会社富士通システムズアプリケーション&サポート／ムサシ・アイ・テクノ株式会社

○ 助成：子どもゆめ基金助成活動

● 研究紀要の原稿募集

当財団では「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第 33 号の原稿を募集しています。 詳細は↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/06\\_res-pub/04\\_journal/boshu.html](http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html)

◇「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要 第 32 号」を販売しています。

発行：当財団 2019 年 3 月 A5 判 164 頁 1500 円＋税

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

● 当財団公式 Twitter → [https://twitter.com/IICLO\\_News](https://twitter.com/IICLO_News)

■ ----- ■  
【 2 】 コラム  
■ ----- ■

\*\*\*\*\*

《 1 》 この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk (特別編)

\*\*\*\*\*

『ひとりでよめたよ！ 幼年文学おすすめブックガイド 200』 大阪国際児童文学振興財団/編 評論社 2019 年 6 月下旬予定 2500 円＋税 対象：大人

T：とうとうできました！！

Y：はい。当財団編集の本が近日中に発行されるので、今回は特別編です。どうしてこの本を出そうと思ったかについてお話ください。

T：今、低年齢の子どもの読書が注目されていますが、そこで取り上げられるのは絵本が中心です。絵本のブックリストは数多く出版されていますが、幼い子ども向けの文学のブックリストはほとんどありません。けれど、私たちは、幼児期に文学に出会うことをとても大切に思っており、この本を出すことにしました。

Y：2019 年現在購入可能な本を 200 冊選びました。

T：読み継がれている古典作品から最新の本までが並んでいます。

Y：このブックガイドの特徴であり、ぜひ、読んで周りの人と議論していただきたいと思う点は、取り上げた本の紹介文です。ただあらすじを紹介してもらおうのではなく、なぜ、その本が幼年文学なのか、幼年期の子どもにとっての意味を書いてもらうようお願いしました。

T：執筆者は子どもの本の研究者、子どもに身近な学校司書さん、子どもに本を手渡す大人の近くにいる書店員さんなどがおり、広がりのある内容になったと思います。

そして、読物性の高い絵本も紹介することで、絵本と幼年文学の両方を楽しんでもらえるようなブックガイドにしました。

Y：両方という意味では、幼年文学は、読んでもらっても、自分で読んで楽しい本であるというコンセプトで本を作りました。

T：コラムには、幼年文学の書き手の思いが詰まったエッセイが掲載されています。

ぜひ、この本を読んで、新しい幼年文学作品に出会って欲しいと思います。

\* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

\*\*\*\*\*

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

\*\*\*\*\*

第46回「朝に就ての童話的構図」

「童話的構図」が示すもの

少々長いタイトルの本作は、賢治が生前に発表した最後の作品です。雑誌『天才人』第6輯（昭和8年3月）に発表され、その約半年後に賢治はこの世を去りました。「ありときのこ」（または「蟻ときのこ」という題名でも親しまれてきたごく短い童話です。

物語の舞台は、苔いちめん霧がぼしゃぼしゃ降る羊歯の森。2匹の蟻の子どもが、突然目の前にあらわれた大きな〈真っ白な家〉を見つけます。近くにいた蟻の兵隊（歩哨）にたずねたところ、アルキル中佐および陸地測量部に伝えに行くよう言われます。歩哨はその間、スナイドル式の銃剣を構えてその〈真っ白な建物〉をにらみつけています。

やがて、子どもたちはそれが〈きのこ〉だと教えられて戻り、歩哨に報告。そのとききのこは自然に倒れており、また向こうで別のきのこがあらわれます。ばつが悪そうな歩哨をよそに、子どもたちは〈笑って笑って笑う〉ところで物語は閉じられます。

軍隊という硬直した組織に組み込まれる蟻と、そこからは無縁な子どもの健康的な笑いを対照的に描く図式が、「童話的構図」と言うことなのでしょう。

〈霧の粒はだんだん小さく小さくなって、いまはもううすい乳いろのけむりに変わり、草や木の水を吸いあげる音は、あっちにもこっちにも忙しく聞え出しました。さすがの歩哨もとうとう睡さにふらっとします。〉

草や木が、水を吸いあげる音が忙しく聞え出すほど静寂な空間。そんななか、銃を抱えて鉄の帽子を被り、ついうとうとする蟻の歩哨。絵画的ともいえる描写も「童話的構図」たる所以です。

一方で、本作はこれまで子どもの無邪気さや聖なるイメージの増幅が指摘されてきた童話であり（磯貝英夫「テクスト評釈 朝に就ての童話的構図」1986年）、子どもの際立つイノセンスが「童話的」情景を形成しているとも言えます。生前最後の発表作ということも興味深いですが、賢治の子ども観を垣間見ることのできる作品です。（ペ吉）

（本文の引用は、角川文庫版『セロ弾きのゴーシュ』によりました。）

\*\*\*\*\*

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 106

\*\*\*\*\*

その12 まとめにかえて

2010年9月から、「おはなしボランティア」の方々と一緒に考えたい内容について連載してきましたが、絵本、おはなし、ボランティアのありようなど、私がお伝えしたいテーマは一通り書かせていただきましたので、いったんこれで連載を終了したいと思います。

おはなしボランティアの状況は連載当初と比べて大きく変化しているように思えません。高齢化が進んだり、なかなかボランティアのメンバーが集まらなかったり、かえってたいへんな状況のグループも増えているように思えます。

友だちどうしや家族とのコミュニケーションがどんどん難しくなっている現代において、地域の大人たちが絵本やおはなしを通して子どもたちとコミュニケーションをするというのはとても意義深いことだと思います。絵本やおはなしにある「ことば」が子どもの体内に入り、自らのことばとして思考や人とのコミュニケーションに使うことができればいいなと思っています。

私自身もいろいろな子どもと絵本やおはなしを通して出会い続け、どんな作品をどのように伝えるべきか考え続けていきたいと思っています。

長い間お読みくださり、ありがとうございました。  
この欄は、来月から新しい連載が始まります。楽しみにお待ちください。(Y)

\*\*\*\*\*  
《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*  
神戸ゆかりの美術館で9月1日まで開催されている「ヒグチユウコ展 CIRCUS」に行ってきました。人気の画家で絵本作家であるヒグチユウコさんの約20年の画業の中で描かれた700点以上の作品が展示されています。

最初に絵本の原画が展示されていて、デビュー作の『ふたりのねこ』（祥伝社2014年）から最新作『ほんやのねこ』（白泉社2018年）までの絵本に登場する、ぬいぐるみのニャンコや、手が蛇で足が蛸の猫のギュスターヴくん、ひとつめちゃんなどの不思議なキャラクターが勢ぞろいしています。

鉛筆やペンで描かれ、ときに水彩絵の具で着色された絵は、繊細であると同時に存在感があります。どのキャラクターも、前を向いているのになぜか観る者と視線が合わず、ちょっと怖い気持ちになりました。キャラクターは、私たちとは別の独自の世界に生きており、好きな人にとっては、その世界に浸れる楽しさがあるのかなと思いました。

ファッションブランドや企業などとのコラボ作品もあり、特に画材の会社ホルベインの作品がおもしろかったです。絵の具のパッケージに描かれた、絵の具のチューブからそれぞれの色に合わせた動物や植物などが出てきています。その他に、ヒグチさんが描くときの方法や、絵の具やパレットの使い方や塗り方、色の合わせ方などを解説した作品もありました。

グッズも大人気で大行列ができていました。個性の強いヒグチワールドだからこその人気だと思いました。(K)

■ ————— ■  
【3】全国のイベント紹介

- ————— ■  
● <フォーラム・子どもたちの未来のために>シンポジウムIN京都  
「私たちの時代・私たちの表現ーいま、子どもたちに何を伝えるかー」

第1部 基調講演「私たちの時代・私たちの表現」

講師：中島京子（作家）

第2部 シンポジウム「いま、子どもたちに何を伝えるか？」

講師：あさのあつこ（作家）、中島京子、長谷川義史（絵本作家）、  
令文ヒロ子（作家）

司会：ひこ・田中（作家）

会場：ひと・まち交流館 京都

時間：14時～16時30分 定員：200人

会費：有料 申し込み：必要

主催：「フォーラム・子どもたちの未来のために」実行委員会

● 資料小展示「幻の児童雑誌『カシコイ』～学年誌が描いた子ども文化～」  
昭和7年に創刊された学年別児童雑誌『カシコイ』（精文館）に掲載された貴重な童画の原画を、戦前戦後に出版された数々の学年誌とともに紹介します。  
会期：開催中～6月30日（日）休館日あり 入館無料  
会場：大阪府立中央図書館 国際児童文学館（東大阪市荒本）  
主催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館  
協力：北村好子、行司千絵、京都国際マンガミュージアム、大阪国際児童文学振興財団

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■  
【4】プレゼント

■ ----- ■  
今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『ひとりではよめたよ！幼年文学おすすめブックガイド200』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO.106 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。締切は7月10日(水)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

-----  
新大阪駅から放出（はなてん）駅までの区間が今年3月に開業し、JRおおさか東線が全線開通した。先日初乗車し、車窓の景色に釘付け。今はいささか殺風景だが、接続も便利になり人の流れも大きく変わる。かつての大阪万博で千里方面が大きく変わったように、2025年の万博ではウォーターフロントにどんな変化がもたらされるか見守っていきたい。（TA）

-----  
みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメルマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

[http://www.iiclo.or.jp/m1\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html) パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

-----  
発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp  
-----  
-----